

# 2022年度 社会福祉法人 高崎福祉倶楽部 事業計画

## 1. 基本方針

社会福祉法人として「社会、地域における福祉の充実・発展」に寄与することを使命とし、基本理念である「生きる喜びを支えるケア」と「その人らしさを大切に一人ひとりの生活を支援する」の実現のため、基本サービスの質の充実、生活環境の向上を図ります。また、コロナウイルス感染の終息を見据え、様々な生活課題や福祉需要に柔軟に取り組み社会福祉事業の安定的・継続的経営に努めます。

## 2. 重点項目①～⑥（2021年改定に引き続き対応）

- ① 感染症及び災害対策（介護基盤の構築）
- ② 生産性の向上（会議や多職種連携における ICT の活用）、多様な人材の活用（外国人技能実習生や留学生を含む）
- ③ LIFE（CHASE&VISIT）の活用
- ④ 人権擁護、高齢者虐待の防止、身体拘束等の適正化、**安全対策体制の構築（安全対策担当者の必置）**
- ⑤ 働き方改革への対応と職場環境整備（両立支援への配慮、ハラスメント防止、**女性の活躍を推進**）
  - ・ 有給休暇の計画付与（年間 10 日以上の場合 5 日）
- ⑥ 規程類の見直し
- ⑦ 地域交流事業
  - ・ 地域活動（介護予防体操）の再開
  - ・ ホームページによる広報活動の継続

## 3. 予算（借入金償還を含む）・事業別計画 ※別紙参照

## 4. 会議計画

- |                         |       |          |
|-------------------------|-------|----------|
| ① サービス責任者定例会議           | 月 1 回 | 各事業所の責任者 |
| ② 安全衛生委員会・危機管理委員会（①と同日） | 月 1 回 | 各事業所の責任者 |
| ③ 給食会議                  | 月 1 回 | 各事業所の責任者 |

## 5. 研修計画

- |  |       |
|--|-------|
| ① 職員研修（オンライン、zoom 等含む）                           | 月 1 回 |
| ② 看取り・喀痰吸引の研修                                    | 年 1 回 |
| ③ 感染予防、事故、身体拘束防止に関する研修                           | 年 4 回 |
| ④ BCP（業務継続に向けたシミュレーション訓練の実施） <b>災害、感染症</b>       |       |
| ⑤ 外部研修への参加（※認知症介護初任者、実践者、リーダー研修等及び身体拘束防止、リスク管理等） |       |

## 6. 修繕・購入計画

- ① 照明器具の LED 化
- ② 車輛の購入（車いす対応小型車輛の老朽化）
- ③ 外壁補修工事（定期検査時の不具合）

## 7. 職員採用計画

- ① 介護福祉士養成校や社会福祉協議会、ハローワーク、派遣事業者との連携、シルバー人材、有償ボランティア等の活用
- ② 外国人技能実習生（外国人特定技能を含む）の受入れ

## 2022 年度 特別養護老人ホーム悠ゆう 事業計画

現在も収束をみないコロナ禍の中、ご入居者の感染防止に全力を注ぐ。コロナ禍において、ご入居者のストレスや認知症の進行等が懸念されますがご入居者へ細心の気配りを怠らず、望む生活の支援ができるよう、専門性を持ち支援していくことを念頭に安全で快適な生活の場と生活の質の向上を目指します。

### <目標>

- 1.施設稼働率 98%の維持を目指します。
- 2.リーダーシップを発揮できる人材育成に努めます。

### <実施計画>

#### 1.多職種の連携チームケアの構築

個々の心身状況の把握と成果の見える具体的プランを職員主体で作成する。

#### 2.コミュニケーション能力を高めリーダーシップを発揮できる人材育成

#### 3.感染対策について

- ①入居者の体調管理を行
- ②手指消毒 マスク着用 定期的な換気 周囲の消毒の徹底
- ③防護具、必要物品等の在庫場所、排出ルート of 把握確認

## 機能訓練

### <目標>

生活リハビリの充実を図る

### <実施計画>

- 1.残存機能維持を目的としたレクリエーションの実施
- 2.入居者の生活歴を踏まえた住環境の整備と日常生活の充実を図る
- 3.口腔機能向上の為の口腔体操を実施(誤嚥性肺炎・感染予防)

## 給食

### <目標>

食べる楽しみと経口摂取の維持

### <実施計画>

- 1.食欲を刺激する献立、食事形態の工夫による経口摂取の維持に努める
  - ・季節感や生活感のある食事の提供
- 2.栄養ケア計画に基づき経口摂取機能の適切な評価
  - ・多職種の評価を基にした嚥下調整食の提供

## 健康管理

### <目標>

健康の維持と感染症の予防

### <実施計画>

- 1.健康管理と観察のポイント、疾病と服薬(皮膚の保護)についての周知
- 2.看取り、褥瘡予防、感染等の施設内研修の実施
- 3.事故の予防と事故発生時の対応の周知
- 4.職員管理の為の健康診断実施(腰椎予防対策を含む)

## 令和4年度 デイサービスセンター青葉 事業計画

「住み慣れた地域で暮らす」を目標に在宅生活が維持できるように通所介護、介護予防・総合事業を提供します。

### ＜ 目標 ＞

ご利用者の心身状況や本人の意向を尊重しながら日常生活が送れるように支援します。

若年化傾向にあるため、個別に認知機能の向上を目的とした運動・脳トレに力を入れる。

### ＜ 実施計画 ＞

1. 軽費老人ホーム、短期入所事業、居宅事業者やあんしんセンターと連携し新規利用者を獲得する。1日の平均利用人数18名を目指す。
2. 利用者のニーズに応え、短時間利用等柔軟に対応する。
3. 地域における認知度アップを目指し積極的な情報発信をする。
4. 地域活動「歌って笑って健康体操」の継続により地域住民との交流をはかる。  
(今後に向けての開催方法を検討して行く)

## 令和4年度 ケアプランセンター悠ゆう 事業計画

住み慣れた地域で自立した在宅生活を継続できるよう、一人ひとりの心身の状況、および生活環境に応じ、利用者の選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスを総合的かつ効率的に提供できるよう努めます。

### 《目標》

1. 新規利用者数の確保(稼働率の維持)
2. 他の専門職種との連携・協働の強化
3. 感染症対策の強化

- ・近隣病院(医療連携室等)、地域包括支援センターや社会資源を活用しネットワークの構築、新規利用者の確保(稼働率の維持)ができるように活動を継続する。
- ・地域の一員として、地域住民や周辺自治体の情報収集に努め、他専門職種との連携を図り、事業所の存在をアピールする。
- ・常に最新の情報を取得し、施設内外での情報の共有化を図る。

## 2022年度 ケアハウス「グリーングラス」事業計画

入居者の方それぞれのニーズを把握することにより、生きがいと意欲を持てるよう関係部署と連携を図り支援します。

### < 目 標 >

コロナ禍であってもより多くの入居者の方が参加できる行事を工夫し、意欲・体力低下防止を図る。

また、個人として日々の生きがい、楽しみを感じられるような企画を提供する。

入居待機者に関しては、複数の申込者を確保し定期的な連絡を持って、常に一定数の待機者を保つ。

### < 実施計画 >

1. 介護予防の体操、レクリエーションの実施時間、内容を工夫しより多くの方が参加できるように努める。
2. 趣味で創作活動をされている方（編み物、短歌、書道等）の希望があれば、作品の展示会等を企画し更なる創作意欲、日々の生きがいを持てるよう支援する。
3. 健康チェック（血圧、脈拍、体重測定）の月1回以上の実施と年1回以上の健康断を促す。
4. 施設内で安心して利用者交流が出来るようなスペースを確保し、機会を提供する。
5. 事業所内居宅との連携の他、高崎を中心とした居宅事業所などに定期的案内を行い問い合わせの数を増やし、待機者獲得につなげる。
6. 近隣にお住まいの方々に当事業所の案内が出来る企画を提案、実践する。

## 2022年度特別養護老人ホーム 悠ゆうみなみちょう事業計画

悠ゆうみなみちょうの事業運営は、基本理念に基づき、利用者の喜びを支えるケアの提供、利用者の尊厳を守り、個別性を重視し、地域の方々に信頼される施設づくりを継続して推進していきます。介護人員体制を整備し、広報活動の強化により、安定した待機者確保を図り、特養6ユニット満床を目標とします。6ユニットの稼働が安定した上で併設型短期入所と連結特養ユニットの再稼働を目指していきます。短期入所は、併設型短期入所が稼働できるまで特養の空床利用で対応し、積極的に受入れを行います。

現在の入所状況は低迷しておりますが、広報活動強化により、医療機関、居宅介護支援事業所からの入所相談が明らかに増えています。短期入所の紹介が大半を占めておりますが、長期入所へ繋がる可能性に期待し、また、併設型短期入所再稼働に向けて短期入所も積極的に受け入れを行っています。広報活動の有効性を実感しており、強化を継続し、入所状況の改善に努めて参ります。

介護人員体制は、4月より留学生アルバイト2名が常勤となり、入国が延期となっている中国人技能実習生2名の入職が決まっております。ユニット再稼働に必要な人材確保に努めて参ります。また、現在勤務されている職員が辞めることのないよう、現場職員とコミュニケーションを取り、働きやすい環境整備に取り組んでいきます。

### 特養・短期入所

<目標> 個別ケア実践 ～個別性に配慮して、ご利用様が安心・安全に楽しく生活が送れるよう支援

する～

<実施計画>

- 1 入居者の生活習慣や生活様式を把握し、個別のニーズに沿った支援を行う
- 2 事故や不安のない（安心・安全・楽しい）生活を実現する。
- 3 部署内及び各職種間で情報共有と連携を徹底し、チームケアを実践する。
- 4 サービスの平準化と質の向上のため職員研修や勉強会を実施する
- 5 地域との連携を密に行い、感染対策を講じて慰問、ボランティアを積極的に受け入れる

### 部門別

#### 機能訓練

<目標> 生活リハビリの充実

<実施計画>

- 1 個別に状態の把握に日々努め可能な限り自立支援を行う
  - (1) 自立支援を職員が理解し実践する。(2) ケアプランに位置づける。
- 2 余暇活動を充実させ日常生活に機能訓練を取り入れる
  - (1) 午前・午後の活動を日課に位置づける。(2) 機能訓練の体制を整える。
- 3 日常生活に即した訓練（起立、歩行等）を行い、残存機能を維持する。
  - (1) 生活リハビリ、自主訓練プログラムをケアプランに位置づける。

## 給 食

<目標> 食べる楽しさへの工夫と経口摂取の維持

<実施計画>

- 1 摂食意欲が維持できる食事を提供し、経口摂取の維持に努める
  - (1) 医務、ユニット等チームケアの実施
- 2 誤嚥や誤飲等の事故の予防
  - (1) 適切な食事形態の提供
  - (2) 状態変化による食事形態の変更にユニット、医務と連携し、迅速に対応
  - (3) 食事変更に伴うカンファレンスへの参加
- 3 入居者とのふれあい
  - (1) 食事状況の立ち会い評価 (2) 定期的な嗜好調査の実施
- 4 適切な食事提供への研究
  - (1) 栄養価主体メニュー (2) 地域食材提供 (3) 季節節感や生活感のある食事の研究

## 医 務

<目標> 健康維持と感染症予防

<実施計画>

- 1 入居者の健康管理及び自立支援 (1) 健康管理 (2) 自立支援
- 2 ショートステイ入居者の健康管理 (1) 利用中の健康管理・相談と薬剤管理
- 3 看護・介護の質の向上 (1) 職員への疾病と服薬についての研修の実施 (2) 看取り・褥瘡予防・感染予防等、施設内研修会の実施 (3) 事故予防と事故対応の研修の実施
- 4 職員の健康管理 (1) 年2回の健康診断の実施 (2) ワクチン接種の実施

## 併設型短期入所事業

<目標> 人員体制を一刻も早く整え、再稼働できるよう努める。短期入所は併設型短期入所が稼働できるまで空床利用で対応する。

2022 年度目標 (2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

特 養 (空床利用型短期入所含)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
月別稼働率 (%)	64.0	64.0	70.0	70.0	75.0	80.0	80.0	80.0	85.0	85.0	85.0	85.0

併設型短期入所

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
月別稼働率 (%)	12.0	11.6	12.0	11.6	11.6	12.0	11.6	12.0	11.6	11.6	12.9	11.6